

OKINAWA ARTS COUNCIL

沖縄アーツカウンシル
令和2年度
沖縄文化芸術を支える環境形成推進事業
支援事業事例集

OKINAWA ARTS COUNCIL

令和2年度沖縄文化芸術を支える環境形成推進事業では、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、これまでの一般提案事業の公募に加え、新型コロナウイルス感染症対策支援事業「おきなわの文化芸術がふたたび歩み出すための緊急応援プログラム」を緊急的に実施し、県内の文化関係者の支援に取り組んで参りました。

本支援事業事例集では、一般提案事業に加え、新型コロナウイルス感染症対策支援事業の支援事例について、ご紹介いたします。

| 目次 |

- 03 ごあいさつ
- 04 沖縄アーツカウンシルとは
- 06 沖縄文化芸術を支える環境形成推進事業（一般提案）公募内容について
- 11 令和2年度沖縄文化芸術を支える環境形成推進事業（一般提案）支援事業のご紹介
- 43 新型コロナウイルス感染症対策支援事業について
- 47 新型コロナウイルス感染症対策支援事業支援事業一覧
- 54 ぶんかとほじょきんそうだん会のご報告
- 55 公益財団法人沖縄県文化振興会 事業一覧

沖縄アーツカウンシル

住所 沖縄県那覇市字小禄 1831-1
沖縄産業支援センター 6階 605
公益財団法人 沖縄県文化振興会

TEL 098-987-0926

URL <https://okicul-pr.jp/oac/>

FB <https://www.facebook.com/okinawa.arts>



令和2年度沖縄文化芸術を支える環境形成推進事業 事例集発行に寄せて

ごあいさつ



令和2年度沖縄文化芸術を支える環境形成推進事業支援事例集を発刊するにあたり、ごあいさつを申し上げます。

さて、昨年来の新型コロナウイルス感染症の蔓延は、未だ出口が見えず、経済をはじめ文化芸術・スポーツ等、多方面で世界的に人類の活動が被害を被り、大きな停滞を余儀なくされております。

私どもは、一日も早く平穏無事な環境でそれぞれの活動に邁進できるよう、連携・協力して、このコロナ禍を乗り越えなければなりません。

本事業は、公益財団法人沖縄県文化振興会が県から委託を受けて実施する補助事業で、今年度で4年目を迎えます。今年度は、通常の一般提案事業14件に加えて、新型コロナウイルス感染症対策支援として75件を追加採択し、支援に取り組んでいます。

これらの活動を本事例集を通してご紹介し、広く発信していくこともまた私どもの責務と考えております。

ご一読を賜り、沖縄文化芸術の力強さとその多様性を感じていただければ幸いに存じます。

結びに、ご関係者の皆様に心から感謝と敬意を申し上げ、ご挨拶といたします。

公益財団法人 沖縄県文化振興会
理事長 又吉民人

沖縄アーツカウンシルとは

沖縄は、古来、アジア諸国との交易を通じて多様な文化芸術を受け入れ、沖縄の精神的、文化的風土と融合させることで、亜熱帯の海に囲まれた美しい島々に、独特的な文化芸術を育んできました。

文化芸術は、長い歴史の過程で積み上げられ、伝えられてきた英知の結晶であり、人々が心豊かに生き、活力のある社会を築き、世界と友好を深めていく基盤として、本県の発展に欠かせないものです。

(沖縄県文化芸術振興条例前文より)

こうした認識に立ち、沖縄県は、本県の多様で豊かな文化資源を活用した文化芸術活動の持続的発展を図ることを目的に、沖縄版アーツカウンシル機能を導入した「沖縄文化芸術を支える環境形成推進事業」を実施しています。公益財団法人沖縄県文化振興会は、沖縄県から委託を受け、県内の文化芸術団体に本事業を通じてさまざまな支援を行っています。

沖縄アーツカウンシルは、文化芸術分野の専門家で構成されるアドバイザリーボードを設置し、寄り添い型のハンズオン支援を行うプログラムオフィサーを配置しています。アドバイザリーボードは、事業の選定及び評価・検証、プログラムオフィサーは文化芸術団体へのハンズオン支援や相談業務のほか、県内の文化芸術の活動状況を踏まえた助成制度の構築を行っています。

About Okinawa Arts Council

Since ancient times, Okinawa has been exposed to various cultures by trading with other Asian countries. Okinawa has cherished the arts and culture that are unique to these beautiful subtropical islands by assimilating those of other Asian cultures with the ethos and cultural climate of Okinawa.

Arts and culture are the result of ancestors' wisdom gathered over a long period of time. In order to make a spiritually affluent lifestyle for the people here, to create a vibrant society, and to build friendships with the rest of the world, it is essential that Okinawa Prefecture further develops its arts and culture into the future (excerpt from the preamble to the Okinawa Arts and Culture Promotion Ordinance).

In recognition of the above, and utilizing the Arts Council Okinawa project, we aim to implement the project to establish an environment to support Okinawan arts and culture in order to promote the continued development of artistic and cultural activities, using Okinawa's rich and diverse culture. Designated by the Okinawa Prefectural Government, the project aids art- and culture-related organizations in Okinawa by providing financial support.

In consultation with an advisory board consisting of a group of experts in the field, the Okinawa Arts Council provides hands-on support through program officers. The advisory board evaluates and approves programs. Along with providing hands-on support and playing an advisory role for each program, program officers help establish various grant programs depending on each arts and culture activity.

関連する条例・位置付け・所管

沖縄県文化芸術振興条例

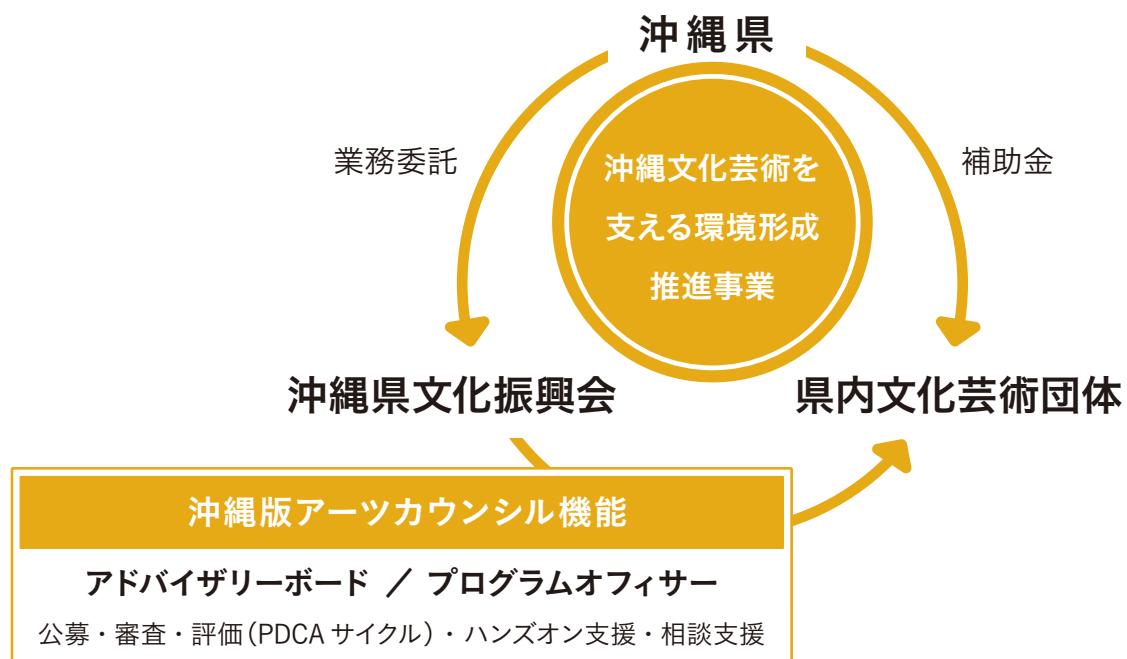
<https://www.pref.okinawa.jp/site/bunka-sports/bunka/140926.html>

沖縄21世紀ビジョン

<https://www.pref.okinawa.jp/21vision/>

沖縄県文化観光スポーツ部文化振興課

<https://www.pref.okinawa.jp/site/bunka-sports/bunka/>



沿革

平成5(1993)年度	財団法人沖縄県文化振興会設立
平成23(2011)年度	公益財団法人沖縄県文化振興会へ名称変更 沖縄県の組織改革により文化観光スポーツ部が創設される
平成24(2012)年度	文化振興の主要事業として、一括交付金を活用した沖縄版アーツカウンシル「沖縄文化活性化・創造発信支援事業」が5ヵ年計画でスタート
平成29(2017)年度	「沖縄文化芸術を支える環境形成推進事業」が活性化・創造発信支援事業の後継事業として開始され、2021年までの継続を予定

令和2年度沖縄文化芸術を支える環境形成推進事業 (一般提案) 公募内容について

沖縄文化芸術を支える環境形成推進事業では、県内文化芸術に関する事業を行う団体を対象に、次の3つの取り組みを支援しています。

1 文化芸術活動の継続・強化に向けた運営上の課題解決を図る取り組み

| 取り組み例 |

- 文化芸術活動の継続・強化に向けて、事業の企画やマネジメント等事務局体制の構築を図る取り組み
- 文化芸術活動を支える担い手等の育成・継承に関する取り組み
- 関連する文化関係団体や人材の組織化を図る取り組み

2 文化芸術の享受者の拡大に資する魅力的な創造発信を行う取り組み

| 取り組み例 |

- 認知度の向上やリピーター獲得に向けた体系的な計画を有する取り組み
- 外部の専門家・団体等と協働して行う意欲的かつ主体的な取り組み
- 創作人材の育成やアーティスト交流を伴う魅力ある取り組み

3 文化芸術資源を活用して地域の諸課題の解決を促進する取り組み

| 取り組み例 |

- 県内の民間事業所（観光、まちづくり、産業その他）と連携して行う取り組み
- 教育機関（学校、図書館、博物館、公民館等）と連携して行う取り組み
- 異なる背景を持つ人々の間の新たなコミュニケーションの創出拡大や共生社会の形成に向けて、関係機関（福祉、国際交流その他）と連携して行う取り組み

公募受付期間 | 令和2年(2020年)3月25日(水)～4月3日(金)

※再提出：5月28日～6月8日(新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言を受け、感染症対策を踏まえた企画を再提出)

補助対象者 | 県内に主たる事業所を有し、文化芸術事業を行う団体

補助金上限額 | 区分① 500万円 区分② 500万円 区分③ 1000万円

補助率 | 1年目:90% 2年目:80% 3年目:70%

補助金総額 | 55,872千円(当初)

スケジュール

令和2年	2月	● 令和2年度公募情報公開／公募説明会／個別相談会
	3月	● 公募説明会／個別相談会
	4月	
	5月	
	6月	● 公募期間 アドバイザリーボード審査会 (新型コロナウイルス感染症の影響により延期) 再提出期間 アドバイザリーボード審査会
	7月	● 事業採択／交付決定／事業開始
	8月	
	9月	● 概算払い(5割上限)
	10月	
	11月	● 中間調査(予算執行状況等の確認)
	12月	● 中間調査(予算執行状況等の確認)
	令和3年 1月	
	2月	● 事業完了
	3月	● 補助金交付 ● 報告書提出／精算

ぶんかとほじょきんそうだん会
(毎月20日／宮古・石垣
2～3回)

令和2年度沖縄文化芸術を支える環境形成推進事業 (一般提案) 支援事業一覧

1

文化芸術活動の継続・強化に向けた運営上の課題解決を図る取り組み

- ① シティブディ復活に向けた、与那国島の祭事と芸能を受け継ぐ『場』づくり事業
一般社団法人 与那国フォーラム
- ② 「平和と鎮魂」をテーマとするネットワーク型国際芸術祭へ向けたアーティスト交流事業
一般社団法人 すでいる
- ③ アートセンター設立に向けて県内、国内外ネットワーク構築、人材育成及び交流事業
Art Initiative Okinawa (AIO)
- ④ 沖縄出版文化の県外及び東アジアでの交流・連携ネットワークの構築事業
沖縄出版協会
- ⑤ 沖縄県内で活動する芸能実演家とスタッフの活動実態調査
一般社団法人 沖縄県芸能関連協議会
- ⑥ 沖縄の海人文化の保存・継承活動を核にしたまちづくり事業を持続的に発展させるための組織強化事業
特定非営利活動法人 ハマスーキ

2

文化芸術の享受者の拡大に資する魅力的な創造発信を行う取り組み

- ① 沖縄発の戯曲作品の活用を通して、沖縄の歴史的・社会的課題に向き合い、モヤモヤと考える波を起こすきっかけ作り事業
AKNプロジェクト
- ② おきなわのすべての人々が舞台芸術にふれて、ゆるやかに楽しむための実態調査と検証およびプログラム開発
シアトロエスペランサプロジェクト
- ③ サブスク時代における沖縄発の音楽プラットフォーム構築事業
株式会社 クランク

3

文化芸術資源を活用して地域の諸課題の解決を促進する取り組み

- ① 祭祀を記録した写真による地域の精神文化創出に資する事業
まぶいぐみ実行委員会
- ② 川平村の祭事を支える古謡等の保存と地域文化の継承に向けた環境整備事業
川平公民館
- ③ 沖縄戦・ひめゆり学徒隊の歴史を海外に伝える展示プロジェクト
公益財団法人 沖縄県女師・一高女ひめゆり平和祈念財団立
ひめゆり平和祈念資料館付属ひめゆり平和研究所
- ④ アーティストと開発する社会教育プログラム
特定非営利活動法人 地域サポートわかさ
- ⑤ 患者はアーティストになり得るか、職員はどうだ～県北からアートで医療を後押しする～
医療とアートを考える会

プログラムオフィサーの紹介

[チーフプログラムオフィサー]

林 恭子 | はやし・やすこ

青森県津軽生まれ。沖縄の風土と文化に魅了され、2003年から那覇市在住。那覇市内で劇場の立ち上げと運営に携わり、映画の宣伝や離島上映会のほか、音楽公演、演劇ワークショップ、市民向け講座の企画制作などを担当。その後、新聞社での取材・執筆・イベントづくり、舞台公演の企画制作等に関わる。遠い目標は沖縄と津軽の文化の融合。

樋口 貞幸 | ひぐち・さだゆき

2015年までNPO法人アートNPOリンク常務理事兼事務局長として、アートNPOの全国ネットワークの構築・調査・政策提言等に取り組む。2016年より現職。監修・編集・執筆に『アートが拓く、あたらしい大阪～大阪アーツカウンシルに向けて』、『地域に根差したアートと文化』等。オフィス・へなちょこ、大阪市立大学都市研究プラザ特別研究员。

[プログラムオフィサー]

麻生 佐矢香 | あさお・さやか

那覇市出身。沖縄県立芸術大学 在学中に多数の展示会に参加。絵本作家の夫を支えつつ、3人の子どもたちと日々奮闘中。2018年までは中学校で美術講師として勤務。最近は、造形作家として「外間あさお」名義で活動中。

島袋 弥生 | しまぶくろ・やよい

広報やPR、イベント運営などのプロモーション業務や課題整理のための調査や分析に携わるほか、ウェブメディアなどでの執筆も経験。人が集う「場づくり」を創造する空間デザインにおいても活動する。

高井 賢太郎 | たかい・けんたろう

和太鼓がきっかけで日本の芸能に興味を惹かれる。大学の講義で沖縄伝統芸能に出会い、現在は、琉球舞踊と組踊の演者として活動中。

真栄城 桃子 | まえしろ・ももこ

読谷村出身。大学時代にミュージカルに出会い、何らかの形で文化と芸術を仕事にしたいと思い活動。2019年3月までの4年間は西原町教育委員会で、さわふじ未来ホールの自主事業の企画運営等に携わる。

OKINAWA ARTS COUNCIL

(一般提案事業)

支援事業のご紹介

令和2年度沖縄文化芸術を支える環境形成推進事業

令和2年度沖縄文化芸術を支える環境形成推進事業（一般提案事業）は、応募数27件のうち14件の事業を採択しました。

過年度の事業事例集は、沖縄アーツカウンシルのホームページからダウンロードできます。

URL <https://okicul-pr.jp/oac/support-projects/>



1 文化芸術活動の継続・強化に向けた運営上の課題解決を図る取り組み

シティブディ復活に向けた、与那国島の祭事と芸能を受け継ぐ『場』づくり事業

一般社団法人 与那国フォーラム | 与那国町

E-mail yonaguniforum@gmail.com

URL <https://yonaguni-didi.jp>

10年以上途絶えているシティブディ

与那国島の「シティブディ（シティ踊り）」は、シッティ（節祭）の期間中に各公民館が対抗して総動員で舞踊、キングイ（狂言）、クミブディ（組踊）、ブー（棒踊り）などを披露する行事で、かつては5つある公民館それぞれから150名もの人々が参加し、6時間にも及んで盛大に開催されたという。近年は町制施行の記念として町が組織する実行委員会を主体に10年ごとに行われてきたが、前回の町制70周年（2017年）には開催されず、披露の機会がほぼ「シティブディ」のみである組踊と狂言においては、継承の断絶が危惧されている。

次世代への継承がスタート

与那国フォーラムが4年間にわたって実施した与那国民俗芸能の継承に関する調査では、後継者の著しい減少や指導者層の高齢化などから、担い手の育成が急務

であることがわかった。調査結果をもとに策定した人材育成計画は、高校進学のため島を離れることになる中学生ひとりひとりにもしっかりと伝わるようにと全編イラスト入りのわかりやすい冊子「与那国島の『祭事芸能』をうけつぐBOOK－与那国民俗芸能人材育成計画書」にまとめ、島内全戸に配布された。沖縄県立図書館などでも読むことができる。

今年度はいよいよ「うけつぐBOOK」をもとに、目標となる発表の機会「シティブディ」の復活を目指し、継承の場を作る島を挙げた取り組みが始まった。DiDi与那国交流館を会場に、舞踊、組踊地謡

成果報告講評会での狂言の実演





小学生や若者たちも参加した狂言講習会

(琉球古典音楽)、狂言の講習会が定期的に開催され、舞踊と組踊地謡の講習会には沖縄島や石垣島の郷友会からも参加があり、島外に進学した高校生も数名参加した。狂言の講習会には島内の20代の若者や小学生も参加し、次世代への継承の期待が膨らんでいる。

「シティブディ」復活を念頭に、継承に向けた与那国島での奮闘は続く。

プログラム・オフィサーのコメント

今年度の取り組みの成果報告として行われた講評会では、舞踊、琉球古典音楽（組踊地謡）の発表とともに、獅子も登場するにぎやかな狂言「アサカティ」が実演されました。講習会に参加した若者たちも出演し、盛んな拍手を受けていたそうです。「シティブディ」開催に向けて、着実な一歩です。

取組概要

①舞踊講習会

- ・沖縄、石垣の両与那国郷友会の会員が、与那国民俗芸能伝承保存会の指導者より舞踊を習う

②組踊地謡講習会（琉球古典音楽勉強会）

- ・町内の希望者が、在沖縄与那国郷友会の組踊地謡経験者より地謡を習う

③狂言講習会

- ・町内の狂言経験者が講師となり、町民を対象に講習会を実施

④小中学校児童生徒に向けて、講習会や研修会への参加を呼びかける

⑤住民主体サロン（花ゆりサロン、アカマチ会）へ講習会観覧を呼びかける

⑥成果報告講評会

- ・与那国町保健センター

1 文化芸術活動の継続・強化に向けた運営上の課題解決を図る取り組み

「平和と鎮魂」をテーマとするネットワーク型 国際芸術祭へ向けたアーティスト交流事業

一般社団法人 すでいる | 読谷村

E-mail peace.oakhg@gmail.com

URL <https://oaipap2020.mystrikingly.com/>

「平和と鎮魂」を考える国際芸術祭の開催

戦後70年の節目に立ち上った「すでいる -Regeneration- プロジェクト」が今年度、「沖縄アジア国際平和芸術祭 2020」として新たな門出を迎えた。過去2年、本補助事業を受けて済州(韓国)や台湾のアーティストとの連携を模索し続けながらも、言葉の壁や意思疎通の難しさを乗り越えて、ようやく沖縄での国際展の実現にこぎつけた。しかしながら、毎年6月23日の慰霊の日に合わせ摩文仁の地で開催してきた展覧会「マブニ・ピースプロジェクト」を12月に延期したほか、会場の変更や海外作家の渡航の見送り、トークイベントのオンライン化など、新型コロナウイルス感染症に翻弄された芸術祭でもあった。

今回、済州や台湾のアーティストを沖縄に迎えたことで、「平和と鎮魂」という言葉の持つ意味合いが、それぞれの地域の来歴によって異なることが示されたのは意義深い。沖縄のアーティストにとっ

ても、海外アーティストの展示から多くの学びを得たことだろう。

アートを多義的に捉え直す試み

昨今の国際芸術祭では環境問題や人権運動、あるいは地政学や民俗学的研究のように一般的にアートとして見なされないようなアーカイブを展示することもある。本芸術祭でも同様に、「平和と鎮魂」をテーマにさまざまな要素を含むプログラムが提供された。米国公文書館等が所有する沖縄戦の記録フィルムを買い取る

大浦湾ピースアートプロジェクト「平和を守る」まぶいぐみ瓦シーサーワークショップ





沖縄アジア国際平和芸術祭 沖縄から発信する平和展オープンセレモニー

「1フィート運動」の上映会や、若いアーティストや大学生による「平和学シンポジウム」、戦後の伊江島での米軍による土地闘争の記録をテーマとする阿波根昌鴻写真展、関連企画の「コザ暴動」写真展、さらには祭祀を写した写真展や首里城の焼け落ちた瓦を使ったワークショップなどが催され、アートの多義性が發揮された芸術祭となった。

取組概要

①沖縄から発信・創造する平和

②沖縄アジア戦後民衆の抵抗の表現

・「沖縄の縮図、伊江島の記録と記憶」展（阿波根昌鴻「人間の住んでいる島」、比嘉豊光「島クトゥバで語る戦世・伊江島編」及びシンポジウム）、「光州・済州・OKINAWA 抵抗の表現」展（ホン・ソンダム「五月連作版画一夜明け」、イ・ミョンボク、高良憲義、新垣安雄）

③大浦湾ピースアートプロジェクト

④平和学シンポジウム

⑤沖縄×台湾オンラインワークショップ

⑥総括シンポジウム

⑦活動報告書の作成と配布

⑧県内企業各社の協賛及び紙面連載 (琉球新報)

プログラム・オфицера комментарий

今年度が補助最終年度ということもあり、自己負担が増える中で事業規模もこれまでを大きく超えました。心配された事業資金でしたが、朝日新聞文化財団や花王芸術・科学財団をはじめ民間4者の助成に採択され、開催につながりました。また、琉球新報で連載されるなど、県内企業との連携も生まれ大きな実績となりました。

1 文化芸術活動の継続・強化に向けた運営上の課題解決を図る取り組み

アートセンター設立に向けて県内、国内外 ネットワーク構築、人材育成及び交流事業

Art Initiative Okinawa (AIO) | 西原町

E-mail info@artinokinawa.com

URL http://www.artinokinawa.com · https://soundscape.okinawa/

新しいアートセンターの設立を目指して

沖縄のアートシーンは潜在的な可能性を秘めている。Art Initiative Okinawa (AIO) はその可能性を現実のものとすべく、かつて那覇市を拠点に活動した前島アートセンターが果たしていた役割に着目する。その役割とは国内外のアート関係者と、沖縄に点在するアーティストや拠点、アートプロジェクト、さらには地域の人々を有機的につなぐ橋渡し的な機能であった。

前島アートセンターが終了した後も、沖縄ではさまざまな実践が繰り広げられている。事前の関係者ヒアリングによる「地域や世代を超えたネットワーク形成」「アーティストと鑑賞者の対話の場」「仕事につながるスキルを学ぶ機会」が切望されていることがわかった。

AIO はそうした声を手掛かりに、多様なプラクティショナーたちのプラットフォームとなるべく、新しいアートセンターの設立を目指して活動を開始した。

ダイアローグとプロジェクトの実践

まず AIO が取り組んだのは、対話の場づくりであった。コロナ禍ということもあり、国内外と沖縄のアート関係者をつなぐうえで、オンラインでの取り組みは欠かせなかった。ゲストにアーティストや国内外のキュレーターらを招き、毎月1回程度のペースで、ZOOM を用いて講座や対話の機会を設けた。こうした意欲的な活動は、県内アーティストたちに世界へ広がるネットワークの存在を示すことになる。コロナ禍で混沌とする状況にあって、ますます対話の重要性を再確認する機会となったことは言うまでもない。





オンラインでの活動に加え、今年度のハイライトでもある南城市の糸数城跡を舞台にした音のサウンドインスタレーション「Soundscape Okinawa」を成功裡に終えた。オンラインとオフラインを往来するプラットフォームに、熱い視線が寄せられている。

プログラム・オフィサーのコメント

図らずも、コロナ禍においてオンラインへのハードルが下がったことも功を奏しました。国際的に活躍するアーティストの照屋勇賢さん、キュレーターとして独自の展開を見せるロジャー・マクドナルドさんら、ゲストもユニークで刺激的。オンラインとオフラインを巧みに使い分ける展開に期待が膨らみます。

取組概要

①ネットワークづくり

- ・県内外ヒアリング調査
- ・沖縄アートマップ／HPづくり

②ダイアローグづくり

- ・アートクロストーク（林立騎、久島昌弘、曾我高明、Marc Dusseillerなど11カ国35名のアート関係者）
- ・アートの持続性講座（ロジャー・マクドナルド、宮城潤、照屋勇賢）
- ・社会に届けるアート講座（上原耕生、嘉藤笑子）
- ・シンポジウム（大田和人、平良亜弥、津波博美、秋友かんな、石垣克子、平岡昌也、丹治りえ、水谷篤志、児玉美咲、他）

③プラットフォームづくり

- ・アートプラットフォーム
- ・Soundscape Okinawa（糸数城跡）開催

1 文化芸術活動の継続・強化に向けた運営上の課題解決を図る取り組み

沖縄出版文化の県内外及びアジアでの交流・連携ネットワークの構築事業

沖縄出版協会 | 糸満市

E-mail edit-gg@flute.ocn.ne.jp

URL https://www.okipa.jp/

「沖縄出版協会」として2年目をスタート

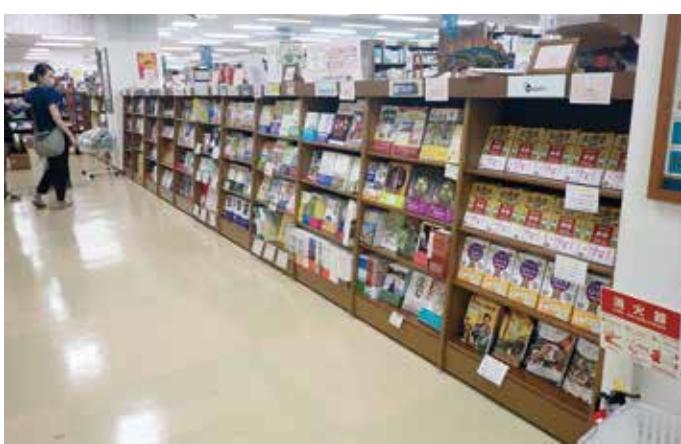
昨年、念願の「沖縄出版協会」を設立した。これまで版元の担当者1人が独自でハンドリングしていた事業に関して、3つの委員会を設立し、それぞれの部門にて運営するようになったことで、活動やアイデアの幅も広がりを見せている。今年度は、新しい取り組みを本事業へ提案し採択された。その取り組みのひとつが若手の育成である。出版界では若手の担い手が少ないとこを課題に挙げ、新たな出版人の創出と育成にも力を注いだ。

今年度の大きな取り組みのひとつが、ジュンク堂那覇店における「おきなわ本フェア」。昨年度に引き続き、2回目の開催となった。会員版元の全てが参加した同フェアは、県内ののみならず多くの沖縄本ファンのニーズに応えたイベントとして定着した感がある。フェアに付随したイベントも、コロナ禍の中、感染防止を心がけ、多くの人々の参加を得た。読書だけではなく、肌で感じ、目で読むイベ

ントは好評を博した。

コロナ禍の影響により、県外での「おきなわ本フェア」の開催が思うようにかなわず、見送りした案件もある。その中で開催できたのが、銀座わしたショップ本店とジュンク堂三宮店となる。銀座わしたショップ本店では首里城関連の2冊を取り上げて、その背景の歴史を紹介する講座を開催した。ジュンク堂三宮店では、「おきなわ懐かし写真館 復帰前へようこそ」パネル展の他、沖縄本ソムリエによる「質問コーナー」を開設し、関西圏の沖縄本ファンの開拓を図った。

ジュンク堂書店那覇店での「おきなわ本フェア」には、各版元がおススメする沖縄本がズラリと並ぶ





「おきなわ本フェア」期間中に実施した、アナウンサーによる朗読会の様子

「沖縄本」購入者の9割は県内の需要である。県内でも新たなニーズの掘り起こしを期待して、書店との企画を模索した。制限がある中で開催したフェアでは、トークショーや展示パネルの反響もあり、口コミでの来場者も少しづつ増えているようであった。

次につながる取り組みを模索

新しい客層にも「沖縄本」に触れやすい環境をつくるために、導入版として書籍の電子化や朗読等の動画の制作にも注力し、SNSやサイトの充実化を図った。イベントでもその動画を流し、「沖縄本」の楽しみ方を紹介した。アナウンサーの朗読だけでなく、作り手の想いや執筆者の解説もあり、ほっこりできる今までとはまた一味違った親しみやすい内容となっている。

プログラム・オフィサーのコメント

今年度は「沖縄出版協会」として2年目の活動をスタートし、組織の軸にある3つの委員会も主体的に動いています。「印刷技術も発達し、リトルプレスの発行もできる時代。出版協会でISBNを取得して、個人の出版を応援していくいかないか」など、30代の若手出版人からの新しい提案も出ているそうで、その様子を楽しそうに話す事務局長の呉屋栄治さんが印象に残りました。

取組概要

- ①沖縄出版協会としておきなわ本を県外へ広く認知させるための活動
- ②県内を中心に沖縄出版協会の認知度を高め、流通体制や連携体制を構築する活動

1 文化芸術活動の継続・強化に向けた運営上の課題解決を図る取り組み

沖縄県内で活動する芸能実演家と スタッフの活動実態調査

一般社団法人 沖縄県芸能関連協議会 | 那覇市

E-mail okigeiren@okigeiren.org

URL <https://www.okigeiren.net/>

沖縄の芸能・芸術団体を守る

沖縄県芸能関連協議会（沖芸連）は、沖縄県内の芸能・芸術文化関連団体（個人）をつなぐ中間支援団体である。24の加盟団体と個人会員約800名で構成され、県内外の多様な芸能文化の交流と協力・連携を図り、社会的・経済的地位の向上を目指し活動している。

現在、芸能実演家やスタッフのほとんどが極めて不安定な経済基盤の下で活動しており、そのことに関しては組踊上演300周年記念事業のシンポジウムでも各世代から共通の問題として提起された。この問題は社会に共有されず、実効的な施策への議論が喚起されないという現状がある。そのため本事業では実演家などの経済的実態の可視化によって、行政及び民間に広く共有を図るためにアンケート調査を実施する。

アンケートの作成・実施・分析

沖芸連は前年度、コロナウイルス感染拡大防止に向けた公演・イベント等中止による芸能活動への影響について、芸能関係者を対象とした緊急アンケートを実施している。実演家の非正規雇用の割合や専業率、イベント自粛等による減収額の平均、男女別の減収見込み等を調査した結果、関係者のひっ迫した状況が明らかとなり、5月に沖縄県へ緊急提言書を提出した。その後、収束の見通しが立たないコロナ禍の中で、本事業ではさらに踏み込んだアンケートを行う。専門家へ

沖芸連の会員





2月に実施したアンケート

のインタビューや協議を重ねて作成されたアンケートは、県内の芸能関係者及びスタッフへ向けて1000部を郵送する。加えてWEBサイト上でも公開し、集計を行う。分析結果から明らかになる課題を見極め、沖縄県の文化政策や文化支援の具体的な実現につなげられるように、沖芸連の活動は続く。

取組概要

①沖縄県内で活動する芸能実演家と

スタッフの活動実態調査

- ・アンケート送付団体の抽出
- ・アンケート内容の設計・外部専門家へのインタビューや協議
- ・アンケート作成・実施・集計・検証
- ・中間報告書作成

プログラム・オフィサーのコメント

沖芸連は沖縄の芸術文化団体をつなぐ重要な中間組織です。文化庁「文化芸術活動の継続支援事業」の窓口やその相談会、勉強会を開催し主催する芸能公演「沖芸連の日」は、出演者の方々の琉球芸能を受け継いでいくという強い想いが伝わります。沖芸連メンバーとともに沖縄の芸能と芸能実演家のために日々活動しています。沖芸連にどうぞご参加ください。

1 文化芸術活動の継続・強化に向けた運営上の課題解決を図る取り組み

沖縄の海人文化の保存・継承活動を核にしたまちづくり事業を持続的に発展させるための組織強化事業

特定非営利活動法人 ハマスーキ | 糸満市

E-mail uminchu.univ@gmail.com

URL <http://www.hamasuuki.org/home/index.html>

糸満の誇りを伝えていくために

古くから「海人（うみんちゅ）のまち」として知られる糸満において、その文化を保全し次の世代へと受け継いでいく活動をしているのが、「糸満海人工房・資料館」の管理運営を行うNPO法人ハマスーキである。ミーカガン（水中ゴーグルの原型といわれている）をはじめとする漁具の展示のほか、イチマングチ（糸満方言）を交えた歴史講話やサバニの乗船体験などは、地域の小学校や大学の教育プログラムとして活用されてきた実績を持つ。団体を支えてきた上原謙理事長や高齢のスタッフから知見を引き継いで若い世代が海人文化を伝承できるように、海人であった山城久雄氏による鉛筆画を活用した講話を開発した。

そのプログラムを収益事業にするため、今年度は更なるブラッシュアップとプロモーションを行う。

海人文化を核にしたまちづくり

ハマスーキは沖縄水産高校や兼城小学校をはじめ、周辺地域の小中学校を受け入れ、鉛筆画を活用した講話や体験プログラムを行った。糸満市のまちづくり委員会や海洋教育推進協議会への参加に加え、今年度はJOCA（青年海外協力隊協会）と連携。県外の修学旅行生を対象とした体験学習で、「SDGsと海人文化」をテーマに地域の資源について考える内容となっている。2月に開催された防災キャンプではアドバイザーを招き、海人文化が地域防災の一助となることを目指して

鉛筆画を活用した講話の様子





「出張資料館」の様子

取り組んでいる。これは糸満の海人が生活の中で作り上げた知恵や道具が、非常事態に役立つことがわかる内容となっている。ハマスーキはこれからも海人文化の継承とまちづくりをキーワードに活動を続けていく。

プログラム・オフィサーのコメント

糸満海人工房資料館へ行くとミーカガンや釣り具をはじめたくさんの資料があり、その資料を見るだけでも面白くて時間の流れがゆっくりになります。また、理事長の上原謙さんのイチマングチを交えながらのお話は、食文化や民謡の話など尽きることがありません。その知見を引き継ぐ若手の上原達彦さんは、防災キャンプやSNSの活用、人材育成など精力的に活動しています。ぜひ一度、糸満海人工房・資料館へ足をお運びください。

取組概要

- ①収益事業のプロモーション
- ②山城久雄氏の漁業体験を記録した鉛筆画2,200枚のデータ化
- ③体験プログラムの実施及び
ブラッシュアップ
 - ・まるる自然塾×糸満海人防災デイキャンプ
- ④新規顧客の獲得に向けた
仕組みづくり
- ⑤人のネットワーク化

2 文化芸術の享受者の拡大に資する魅力的な創造発信を行う取り組み

沖縄発の戯曲作品の活用を通して、沖縄の歴史的・社会的課題に向き合い、モヤモヤと考える波を起こすきっかけ作り事業

AKNプロジェクト | 沖縄市

URL <https://www.jinruikan.com/>

県産の戯曲で“モヤモヤ”する

本事業は、1970年代に活躍した沖縄の劇作家・知念正眞の作品を通して、差別や偏見、言葉、戦後など、沖縄・日本・世界のさまざまな問題について、老いも若きも共に「モヤモヤ」することが目的である。「何か結論を出す」ということではなく、当時と今を比べながら自身の生活と照らし合わせて「なんとなくみんなでモヤモヤしてみよう」という取り組みである。

知念の代表作「人類館」は、1903年(明治36年)に開催された大阪万博での「人類館事件」を題材とした戯曲で、沖縄戦や戦後の沖縄社会をウチナーグチやウチナーヤマトグチを交えて風刺的に描き、第22回岸田國士戯曲賞を受賞した。劇団創造によって長く上演されていたが、劇団員の高齢化などにより県内での上演機会は減少した。

演劇「人類館」の復活

今年度は若い世代と共に、この「人類館」に触れながら戯曲をさまざまなテーマで読み解いてみる「モヤモヤイベント」と称したトークイベントを開催。「沖縄の女性のモヤモヤ～ようこそ女の館へ！男性は聞いたらダメ？～」「沖縄と戦争のモヤモヤ」「沖縄と差別のモヤモヤ」「役者OB16年ぶりに『戯曲・人類館』を朗読して語ってみた」という4つのテーマでトークセッションし、生配信を行った。スピーカーには韓国の文学研究者、ジャーナリスト、映画監督、フリーアナウンサー、

モヤモヤイベント配信チーム





「喜劇・人類館」稽古の様子

劇団創造の元劇団員などが登場した。

2月には西原町さわふじ未来ホールにて、2チーム編成で全6回の「喜劇・人類館」の劇場公演を予定していたが、期間限定の収録配信に切り替えた。劇団創造の関係者を除いた演者での上演は初の試みであり、若い世代へ作品をバトンタッチするきっかけとなった。さらには、ウェブ配信することで、県外、国外へ向けても作品を届けることが可能となった。

AKNプロジェクトでは今後、学校公演や公民館での巡業公演に対応できる若手チームの育成や、「人類館」の映像収録、オンライン上での発信の準備を行っている。それに加えて、念願の「知念正真全集(仮)」の出版も控えている。県産の文学作品が、世界に投げかけるモヤモヤを楽しみにしたい。

プログラム・オフィサーのコメント

今までの「人類館」とはあえて真逆のポップなビジュアルイメージで攻めた今回の「喜劇・人類館」。戯曲の内容との絶妙なミスマッチ?で、まんまとモヤモヤさせられました。差別や偏見は多くの場合、悪気がなく無意識。だから怖いし怖くない。「人類館」を知らない世代や、社会問題に興味がない方や、「どうせ世の中変わらないでしょ」と思っている方々にも、ぜひ触れてもらいたい戯曲。

取組概要

①若者向けのモヤモヤイベント

②新しい沖縄の演劇人材の育成と
環境づくり

③「人類館」劇場公演(収録配信)

④専門家との沖縄のネットワークづくり

2 文化芸術の享受者の拡大に資する魅力的な創造発信を行う取り組み

おきなわのすべての人々が舞台芸術にふれて、 ゆるやかに楽しむための実態調査と検証およ びプログラム開発

テアトロエスペランサプロジェクト | 那覇市

E-mail teatro.esperanza.2020@gmail.com

URL facebook 「テアトロエスペランサプロジェクト」で検索

舞台芸術の届け方を考える

テアトロエスペランサプロジェクトは、いわゆる「リラックスパフォーマンス」の沖縄上演を目指したコンテンツ開発のために立ち上がった。しかしこのコロナ禍において、今までの「リラックス」の意味を改めて考え直すこととなった。

今年度はまずウェブフォームを活用して、芸術鑑賞会の実施について県内の小中学校や高校の教職員、その他舞台芸術に携わる実演団体や個人へのアンケートを実施した。またさらに詳しい話を聞くため、ヒアリング調査も行った。

学校関係者からは、「子どもたちにはさまざまなジャンルの芸術作品に触れる機会をつくりたいが、通常業務とのバランスが難しい」「団体を選ぶのが難しい。情報がない」「助成金は、書類作成などの手続きが煩雑に感じる」との声が多く挙がった。

実演団体同士の連携とコンテンツ開発 に向けて

また、演劇や伝統芸能、バレエ、ミュージカルで活躍している実演家や舞台を支えるテクニカルチームからも、文化芸術と子どもたちそして学校や地域との関わりについて実践経験をレクチャーしてもらう機会を得た。劇団で全国公演を巡業していた経験や営業のノウハウ、相手先との信頼関係を築くコツ、学校現場に授業として伝統芸能が取り入れられた実例とその成果や課題、これから実演家の在り方、琉球舞踊とバレエのフィジカル

有識者による勉強会





野外公演の試演

な共通点の発見、照明や音響から見た作品づくりと観客についてなど、多様な意見交換を行った。

コロナ禍で「リラックス」して鑑賞・体験できるプログラム開発にも着手しており、野外でのパフォーマンスの可能性についても模索中である。1月の報告会では、試作品を映像資料として提示した。今後はこのパッケージの試演を、学校やデイケア施設などと協力して実施していく予定である。

取組概要

- ①沖縄の教育現場・地域社会における舞台芸術の可能性と活用を探るヒアリング調査
- ②県内の先行事例の視察・ヒアリング
- ③沖縄の教育現場・地域社会における舞台芸術の可能性と活用を探る勉強会
- ④沖縄の教育現場・地域社会における舞台芸術の可能性と活用を探る報告会

プログラム・オフィサーのコメント

「リラックスパフォーマンス」というと、障害を持つ特別にケアが必要な方々へ向けたものという印象がありますが、テアトロエスペランサプロジェクトでは自然環境をも生かしながら、身近に文化芸術があふれている沖縄ならではの「リラックスパフォーマンス」を模索中です。

2 文化芸術の享受者の拡大に資する魅力的な創造発信を行う取り組み

サブスク時代における沖縄発の音楽プラットフォーム構築事業

株式会社 クランク | 那覇市

E-mail ryujinoda65@gmail.com

URL <https://musiclaneokinawa.com/>

ミュージシャンの活動の場を広げるためのきっかけづくり

クランクが実施する取り組みは、インディーズバンドを中心に県内ミュージシャンの活動の場を世界へと広げていくきっかけをつくるというものである。クランクは過去数年にわたり、アジアを中心に活躍する音楽プロデューサーたちを招聘し、音楽の流通経路や世界の音楽イベントの取り組みなどについて議論する「トランス・アジア・ミュージック・ミーティング(TAMM)」を沖縄で開催してきた。TAMMの役割は、「海外の音楽シーンを県内のミュージシャンに理解してもらうこと」と、「自ら海外のプロデューサーに売り込みができる機会をつくる」ということに重きを置いている。プログラムのひとつであるプロデューサーと直接話ができる1on1ミーティングでは、ミュージシャン、アーティスト、プロモーターなど県内で活動している多くの方々の利用もあり、好評であった。

「MUSIC LANE」の開設とTuneCore Japan等を講師に迎えた音楽配信講座の実施

TAMMで築いてきたネットワークが土台となり、今年度の事業において、プロモーション・ウェブプラットフォーム「MUSIC LANE」を立ち上げた。サイト上にミュージシャンのページを設け、ミュージシャン自らで情報を更新しPRしていくというものである。今後は翻訳など、付随するサービスを拡充しながら、よりスマートに国内・海外へのアプローチを支

株式会社arne松島功氏による「アーティストのための音楽ストリーミング基礎講座」





TuneCore Japan野田威一郎氏による「セルフプロデュースのアーティストのための実践的音楽配信講座」

援していく。また、サイトの立ち上げと同時にミュージシャンの課題のひとつでもある音楽配信講座を実施した。音楽専業のデータ分析・デジタルプロモーション・マーケティングを行う松島功氏、音楽ディストリビューションサービスTuneCore Japanの野田威一郎氏を招いて行った実践的な配信講座は、質問が飛び交い、熱量の高いものとなった。TAMMというイベント型のカンファレンスから大きな方向転換ではあったが、TAMMの役割も備え、今の時代にもマッチした取り組みとなった。

プログラム・オフィサーのコメント

地道に育んできたアジア各国の音楽プロデューサーたちとの絆が、新しい形「MUSIC LANE」として今年度開花しました。サブスク時代でありコロナ禍に直面した今だからこそ必要な、ミュージシャンへのサポート体制なのかもしれません。過去の実績を生かし、現状をプラスに取り組むクランクの野田隆司さんの執念には脱帽です！

取組概要

①プロモーション・ウェブプラットフォーム開発

②ワークショップの開催（2回）

- ・アーティストのための音楽ストリーミング基礎講座
- ・セルフプロデュースのアーティストのための実践的音楽配信講座

3 文化芸術資源を活用して地域の諸課題の解決を促進する取り組み

祭祀を記録した写真による地域の 精神文化創出に資する事業

まぶいぐみ実行委員会 | 沖縄市

E-mail rougheryet@gmail.com

URL <https://www.facebook.com/mabuigumi/>

写真の新たな意義や価値を見出す

沖縄の写真家達を中心とした集団であるまぶいぐみ実行委員会は、自分たちの活動を「写真という芸術行為において、『撮る』『観る』という関係性に加え新たな意義や価値の可能性を模索し、その実践を繰り返す」と説明している。今年度までの3年間は、写真家の比嘉康雄氏と上井幸子氏(ともに故人)が、1970年代に県内各地で撮影した祭祀の写真の展覧会とシンポジウムを、沖縄島地域と、宮古島、石垣島、与那国島など、その写真の撮影地で開催。写真展を通した人々の対話によって、途絶えかけている祭祀を中心とした地域の精神文化や地域共同体の再生に寄与することを目指した。写真を「写された現場に返す」ということ、そして比嘉、上井両氏が同じ祭祀で撮影した写真の同時展示、というまぶいぐみならではの写真展は各地で大きな反響を呼んだ。

写真展と並行して行われた比嘉作品のアーカイブ作業もほぼ終わり、八重山地

域の島々で撮影された70年代の写真を地元へ返す(提供する)協議も進んでいる。今後は地域の文化資源として利活用されることが期待される。

「新たなイザイホー」に向けて

今年度、那覇市内で行われた写真展では、久高島で500年以上続いた12年に一度の午年の大祭「イザイホー」を記録した両氏の写真が展示された。「イザイホー」は1978年を最後に途絶え40年以上が経過している。最後の「イザイホー」で神職者となった女性たちが70歳を超

写真展オープニング(パレット市民ギャラリー)





比嘉康雄・上井幸子写真展 (DiDi与那国交流館)

えて務めを終えた今、その様子が記録された写真が持つ意味は大きい。新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、撮影地である久高島での写真展は延期を余儀なくされたが、時期を待って開催される。「イザイホー」の写真が島に返されることで当時の記憶が地域で共有され、2026年の午年に向けて、現代でも継承可能な「新たなイザイホー」の可能性が議論される。

プログラム・オフィサーのコメント

比嘉康雄さんと上井幸子さんが、1970年代の同じ日、同じ場所で撮影した作品による奇跡のような写真展シリーズは今年度でいったんひと区切りとなります。おふたりの作品はそれぞれ写真集にまとめられていますので、ぜひお手に取ってみてください。写真の持つ新たな可能性を提示するまぶいぐみ実行委員会の取り組みは今後も続きます。

取組概要

①八重山地域へ写真を返す

- ・竹富島（ゆがふ館）、西表島（祖納公民館、干立公民館）、与那国島（DiDi与那国交流館）へ、比嘉康雄と上井幸子の写真を貸し出し（各所が写真展を実施）

②沖縄事業

- ・イザイホーの魂／久高のニガイ 比嘉康雄・上井幸子写真展（那覇市民ギャラリー）

③久高島事業 ※新型コロナウイルス感染症拡大の影響により延期となった

- ・イザイホーの魂／久高のニガイ 比嘉康雄・上井幸子写真展（久高島宿泊交流館）

④アーカイブ事業

- ・比嘉アトリエでの比嘉康雄の写真や関連資料の整理、アーカイブ
- ・久高島に残された比嘉康雄の写真群の調査
- ・これまですべてが未発表であった上井幸子の写真の利活用について協議

3 文化芸術資源を活用して地域の諸課題の解決を促進する取り組み

川平村の祭事を支える古謡等の保存と 地域文化の継承に向けた環境整備事業

川平公民館 | 石垣市

伝承の危機にある川平の古謡

川平は石垣市の中でもとりわけ古い歴史を持ち、公民館が中心となって年間26もの祭事が執り行われている。祭事で奉納する古謡はかつて多くの人々が歌っていたが、地域の高齢化に伴って、今は一部の年長者しか歌えない状況になっている。1976年に発行された村誌「川平村の歴史」には、川平の歴史や祭事、行事、慣習などとともに祭事で歌われる古謡も収載されているが、短期間で作成された背景などもあり、不正確な川平方言の記述や誤字脱字もあった。そこで川平公民館は、「川平村の歴史」を再編集して近年の地域の記録なども加えた改編版を出版すること、そして集落で大切に保管されてきたカセットテープに残る古謡を採譜することを決めた。それらを活用して、計画的に古謡の練習などの機会を設けることで、地域文化の伝承の環境整備を目指した。「川平村の歴史」改編の編集委員には、民俗学の専門家も招聘した。

地域に起こった大きな変化

この事業に取り組む中で、川平では大きな変化が起こっている。これまで地域の祭事に参加していなかった移住世帯が祭事に関心を持ち、「仲間に入れてほしい」という要望が公民館に届き始めたのだ。2020年4月の川平公民館定期総会では、公民館の建設以来初めてとなる移住18世帯の入会式が行われた。もともと川平に住んでいる人々の間でも、神事の記録の方言表記や行事のあり方について意見交換が始まるなど、地域を挙げて文化継承の熱意が高まりを見せている。

「新版・川平村の歴史」編集委員の皆さん





公民館での三線練習

完成した「新版・川平村の歴史」を活用して、地域の歴史、伝統行事の学び合いや古謡の練習がスタートする。今後は多くの移住世帯も祭事に加わり、数年後にはふたたび多くの人々によって古謡が奉納される日が来ることだろう。

取組概要

①「川平村の歴史」の改編、出版

②「川平村の歴史」の活用

- 勉強会、歌唱練習

③古謡の伝習のための楽譜作り

- 集落に残る貴重なカセットテープの音源とともに、「川平村の歴史」に収載された豊年祭、結願祭、節祭で歌われる古謡を採譜

プログラム・オフィサーのコメント

45年ぶりにリニューアルされた「新版・川平村の歴史」は、川平の各世帯はもちろん、川平を離れて暮らす郷友会会員の皆さんにも広く配本されました。各家庭で日々手に取られ、行事や暮らしの新たなよりどころとして地域全体で活用されることを期待します。

3 文化芸術資源を活用して地域の諸課題の解決を促進する取り組み

沖縄戦・ひめゆり学徒隊の歴史を海外に伝える展示プロジェクト

公益財団法人沖縄県女師・一高女ひめゆり平和祈念財団立
ひめゆり平和祈念資料館付属

ひめゆり平和研究所 | 糸満市

E-mail himeyuri1@himeyuri.or.jp

URL <http://www.himeyuri.or.jp>

海を渡った「ひめゆり」のいま

ひめゆり平和研究所では、今年度もハワイでの調査・展示会を予定していたが、コロナ禍により、国外への移動が困難な状況となってしまった。次年度(2021年度)に予定していたハワイでの展示会も見通しが立たないため、開催場所をひめゆり平和祈念資料館に切り替え、特別展として開催することにした。

ひめゆりの塔周辺の敷地購入資金を寄付した人物がハワイの日系2世であることや、ひめゆり学徒隊引率者・唯一の女性教師がハワイ生まれであったり、元ひめゆり学徒隊の生存者やひめゆり学園の同窓生もハワイ移住していたりと、ひめゆりにとってハワイはとても縁が深い土地である。

前年のハワイ調査で沖縄系の在住者を対象に行ったアンケートでは、ひめゆり学徒隊に対する認知度は6割程度(沖縄戦は9割)であったことがわかった。しかし一方で、ひめゆり学徒隊をテーマにした

演劇やストーリーテリングなど、芸術的な継承活動が実施されている情報も新たに得ることができた。

新しい世代の新しい伝え方

今年度はこれらの調査結果をもとに、海外の人々へ向けた沖縄戦・ひめゆり学徒隊の展示内容について、デザイナーを交えて検討し研究会議を行い、展示コンテンツを制作し、展示図録も完成した。

また展示を教材として活用するため、海外向けオンライン教育プログラムの開発にも着手し、ハワイと沖縄の有識者を

デザインミーティングにて展示のアイデアを話し合う様子





交えて積極的に開発会議を実施した。オンライン上での情報発信方法の構築については、バーチャルツアーやオンライン会議を実施して意見交換を行い、ホームページ設計のプランニングなども進めていく。

取組概要

- ①ハワイ展示プロジェクトの展示制作・デザイン会議・図録の作成
- ②沖縄戦・ひめゆり学徒隊を学ぶ英語のオンライン授業プログラム開発
- ③インターネット上の情報発信方法の構築

プログラム・オフィサーのコメント

戦後75年を迎えて戦争体験者がどんどん減少していく中で、沖縄戦のリアリティーは記憶から薄れ始めているような感覚さえあります。時代が移り変わる中で、ひめゆり研究所は、沖縄戦・ひめゆり学徒隊の歴史を次世代に、そして世界に伝えていくために、さまざまな表現方法を模索しながら、新たなことに挑戦し続けています。

3 文化芸術資源を活用して地域の諸課題の解決を促進する取り組み

アーティストと開発する 社会教育プログラム

特定非営利活動法人 地域サポートわかさ | 那覇市

E-mail info@cs-wakasa.com

URL <https://cs-wakasa.com/program/>

ポストポスト部・ダンボール部・ユーチューブ部の立ち上げ

新型コロナウィルス感染症の流行という事態において、社会の不寛容さや差別といった地域社会の問題が顕在化し、地域コミュニティのあり方を見直す必要に迫られているいま、那覇市若狭公民館(指定管理:NPO法人地域サポートわかさ)では、新しい取り組みが始まった。それは、現代美術家の藤浩志氏がしきける地域の「部活動」の考え方を取り入れ、アーティストを顧問に迎え入れたユニークな部活動。多種多様な人々が差異を保ちながら関わり合い、学び合う「社会教育」の機能を「アート」によって強化し、地域コミュニティの再構築を試みる。この部活動により、地域内の膠着した関係性をゆるやかにつなぎ、地域コミュニティー形成の新たなモデルとなることを目指している。

顧問はアーティスト！

毎週金曜日の夕方は、ポストポスト部

のミーティングが開催される。美術家の平良亜弥氏を顧問として、地域にポストを設置し地域の方に手紙や作品の投函を呼びかける。部員はポストに投函された手紙の返信を考え、その内容を掲示板やWEBサイトにて公開する。返信の内容を皆で考える作業は、始終にぎやかに進んでいく。部員は手紙を投函した本人に直接返信するのではなく、手紙の返事を見る人全てに公開することにより、小さな変化を楽しむことを目的としている。rubodan代表の儀間朝龍氏を顧問に迎えるダンボール部は、地域の廃ダンボールを自ら調達し、便箋やノート、ステッカー等を制作する。部員は若狭地域のビーチク

ユーチューブ部のワークショップ





ダンボール部のワークショップ

リーンを行う「地球ハートクラブ」の子どもたちを中心に子どもから大人まで幅広い世代が一緒に活動している。ユーチューブ部は映像作家の藤井光氏を顧問とし、映像の制作について学ぶ。部員は、在住外国人の方々を中心に撮影や編集を行い、活動を通して多様な背景を持った隣人の存在を伝える。作品はユーチューブ部のWEBサイトにて公開する。各部活動は回数を重ね、徐々に部員同士の緩やかな関係が育まれている。また、2月には、地域にあるホテルで展覧会を開催し、各部の部員が成果発表に向けて協力して取り組んだ。

プログラム・オフィサーのコメント

ダンボール部の部員は主に小学生ですが、ワークショップでは率先して顧問のお手伝いをしました。ポストポスト部は部員の密なやり取りが形となります。キャラクターのPくん、Pちゃんがパーラー公民館に出張するなど、コロナ禍でも人とのつながりを感じさせる部活です。ユーチューブ部は映像制作を通して文化交流の場が生まれています。撮影隊の中には作品をコンクールに応募する班もありました。個性的な部活動、これからも目が離せません!

取組概要

①顧問はアーティスト！アートな部活動

- ・キックオフミーティング（藤浩志、上田假奈代、土屋誠一、儀間朝龍、平良亜弥）
- ・ダンボール部（毎週月曜開催）
- ・ユーチューブ部（活動4回、上映会）
- ・ポストポスト部（毎週金曜開催）
- ・成果発表会
- ・関連イベント アーティストトーク（土屋誠一、藤井光、儀間朝龍、平良亜弥）

②フォーラム

- ・『アート×教育』トークイベント（藤浩志、土屋誠一、前田比呂也、翁長有希）
- ・東京大学の公開講座「社会教育の再設計」とのタイアップ企画

3 文化芸術資源を活用して地域の諸課題の解決を促進する取り組み

患者はアーティストになり得るか、職員はどうだ。～県北からアートで医療を後押しする～

医療とアートを考える会 | 名護市

E-mail mediart2019@yahoo.co.jp

URL http://mediart2019.site/

患者はアーティストになりうるか

作業療法士とは、リハビリテーションに携わる医療従事者である。精神医療においては造形活動や手工芸をはじめとする作業療法を通じて、人々の日常の営みへの参加を支援するのがその役割だ。県内の精神科病院などに所属する作業療法士により設立された「医療とアートを考える会」は、前年度から全国各地の福祉事業所におけるアート活動のリサーチに着手した。今年度は、より具体的な活動へとシフトしていく予定であったが、病院に勤務する医療従事者であることから活動を制限せざるを得ない状況となった。

「医療とアートを考える会」は、精神科医療の過程で制作される作品をアートとして捉え直すことにより、医療従事者と患者の関係を再構築しうるという確証を得たという。病院の倉庫や資料室などに埋もれたまま眠っている大量のアート作品をアーカイブすることにより、個人の表現や関係性の変遷が見えてくる。カル

テとは異なる生きざまそのものの記録として、生活支援の可能性を広げることにつながるのではないかと期待を寄せる。アーカイブ記録は今年度も写真集として発刊されたので、機会があれば手に取っていただきたい。

コロナ禍での活動

新型コロナウイルス感染症の蔓延により活動がままならない状況ではあったが、今帰仁村歴史文化センターの「みんなのトイレ」をギャラリーに見立てたユニークな展覧会を3度にわたり実施。三者三様の表現は、芸術療法の枠を超える力作





ばかりで好評を博した。

他方、県外の視察は一部縮小せざるを得ず、限定的となった。また、予定していた新たなネットワーク構築先であったみずのき美術館視察や、砂連尾理（じゃれお・おさむ）氏によるワークショップはZOOMを活用することで、なんとか実施にこぎつけることができた。

プログラム・オフィサーのコメント

医療従事者グループのため、コロナ禍において事業の計画的な実施は非常に困難を極めました。事業内容の変更・縮小を余儀なくされました。可能な範囲で活動を着実に続けられたのは、強い意志があるからこそ。独特の言い回しが楽しい「医療とアートを考える会」の情報は、Facebookで得ることができます。

取組概要

- ①過去作品のデータ収集整理、関連の情報収集、アーカイブシステム構築の検討
- ②冊子活字化
- ③個展開催
- ④ホームページサイトの運営（技術習得）と充実
- ⑤県内事業所とのつながり
- ⑥県外継続・新規視察
- ⑦造形等ワークショップ
・対談イベント等開催

沖縄文化芸術を支える環境形成 推進事業の採択数・補助金額

豊かな文化が息づく島、ここ沖縄の多様な文化芸術がさらに力強く、次代へと受け継がれていくことを目指し、文化芸術に取り組む団体に対して補助金を通じた支援を行っています。

全国に先駆けて平成24年8月8日からスタートした「沖縄アーツカウンシル」は、平成29年度より新たに開始された「沖縄文化芸術を支える環境形成推進事業（主催 沖縄県）」を通じて、県内の文化団体のキャパシティビルディング（活動基盤の強化やマネジメント能力の習得）に着手してきました。

その支援の特徴は、3年間の継続支援と「ハンズオン支援」とよばれる現場での併走型支援です。沖縄アーツカウンシルは、経営者・有識者からなるアドバイザリーボードと、文化芸術を専門とするプログラムオフィサーを配置し、各々が持つ経験やスキル、ネットワークを活かして、採択団体のみなさまとともに、組織運営の強化をはかりながら、事業の実現に向けて取り組んでいます。

沖縄文化芸術を支える環境形成推進事業

	応募数	採択数	採択率	補助確定額／円
平成29年度	45件	16件 新規のみ	35.5%	62,612,000
平成30年度	28件	19件 継続15件／ 新規4件	67.8%	65,327,000
令和元年度 (平成31年度)	35件	21件 継続17件／ 新規4件	60.0%	63,746,000
令和2年度 [一般提案]	27件	14件 継続6件／ 新規8件	51.9%	40,694,000 (交付予定額)
[緊急支援]	231件	75件	32.4%	66,440,000 (交付予定額)

平成29年度～令和元年度(平成31年度)までの
補助事業で実施した文化芸術活動数

887件

平成29年度～令和元年度(平成31年度)までの
補助事業で実施した文化芸術活動の享受者数

203,315人

(ただし、数万人が来場する大規模イベントへのブース参加のうち、実数が抽出できないものは割愛した。)

平成30年度～令和元年度(平成31年度)までの
補助事業で実施した異分野連携活動数

401件

平成30年度～令和元年度(平成31年度)までの
補助事業で実施した異分野連携事業者数

374団体

「沖縄文化芸術を支える環境形成推進事業」は、その名が示す通り、県内の文化芸術を取り巻く環境の整備を目的としています。文化芸術のエコシステム（活動生態系）を豊かにするためには、事業の円滑な実施もさることながら、県内に多様な活動を継続して実施する組織の存在が不可欠です。

とくに、活動基盤の弱い県内の事業者においては、おのずと年間の全予算に占める補助事業の割合が極めて大きくなる場合があるため、補助事業以外の事業の進め方が大切になります。そのため、プログラムオフィサーは、他の事業への影響の考慮、マネジメントや会計のスキルアップ、ネットワーク形成の手助けなど、幅広く目配せをするよう心がけています。

また、採択事業が終了した後も、事業者から求められた場合は、相談機会などを通じて引き続き支援を行なっています。

沖縄文化芸術を支える環境形成推進事業を終了した取り組みの事例（一例）



沖縄県三線製作事業協同組合

三線文化の普及連携事業

三線組合札幌三線教室の開講



古見公民館

映像・記録作成資料を活用した
地域文化の次世代育成事業

古見小学校学習発表会で「馬節」を発表



シネマ沖縄

地域の8mm 映像オープンデータ実証実験
によるデジタルアーカイブ・ネットワーク
推進事業

収集した8mmフィルム上映会の開催



一般社団法人 琉球フィルハーモニック

ジュニアジャズオーケストラによる
子どもの居場所づくり

若狭地区文化発表会での公演

OKINAWA ARTS COUNCIL

新型コロナウイルス感染症対策支援事業 おきなわの文化芸術が ふたたび歩み出すための 緊急応援プログラム

令和2年度沖縄文化芸術を支える環境形成推進事業

100 (上限)
万円

文化芸術・エンターテインメント
関係者の取り組みを応援します。

令和2年度沖縄文化芸術を支える環境形成推進事業
新型コロナウイルス感染症対策支援
「おきなわの文化芸術がふたたび
歩み出すための緊急応援プログラム」

県内の文化団体等の活動の再開・新規展開を支援するため、現況
下において実施可能な文化芸術に関する取り組みを公募します。

応募〆切 7月31日(金)

7月1日(木)～7月31日(金) 正午必着

那覇市：7月10日(金) 沖縄市営美園セニター 10時受付
7月20日(月) 沖縄市営美園セニター 10時～16時受付
宮古島市：7月17日(金)～7月31日(金) 宮道ターミナルビル 10時～16時受付
石垣市：7月17日(金)～7月31日(金) 石垣郵便局前展示会場
※7月31日は最終となる場合はあります。
※該当は正午までアドミットを確認させてください。
※予算の限制によっては、次回募集を行なう場合があります。

公益財団法人
沖縄県文化振興会
<https://okicul-pr.jp/oac/>

令和2年度沖縄文化芸術を支える環境形成推進事業 (新型コロナウイルス感染症対策支援事業)について

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、沖縄県内では様々な文化芸術事業が中止・延期等を余儀なくされました。本県の文化芸術・エンターテインメントに関する団体等の活動の再開や新規展開を支援するため、コロナ禍において実施可能な文化芸術に関する次の3つの取り組みを公募しました。

おきなわの文化芸術がふたたび歩み出すための緊急応援プログラム

1 文化芸術活動の継続・強化に向けた運営上の課題解決を図る取り組み

| 取り組み例 |

- 新型コロナウイルスの影響を受けた活動を再開するために必要な取り組み等
- 事業主(個人含む)が文化芸術活動を継続して行うために講じる、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策
- 文化芸術活動に関するシンポジウムや研修会等の開催

2 文化芸術の享受者の拡大に資する魅力的な創造発信を行う取り組み

| 取り組み例 |

- 「新しい生活様式」における享受者の拡大に向けた取り組み等
- 新型コロナウイルス感染拡大防止のための医療的な観点を盛り込んだ公演実施等

3 文化芸術資源を活用して地域の諸課題の解決を促進する取り組み

| 取り組み例 |

- 県内の民間事業所や教育機関等と連携する取り組み等
- オンラインを活用した地域の医療施設や福祉施設での上映会やワークショップの実施

公募受付期間	令和2年(2020年)7月1日(水)～7月31日(金)
補助対象者	団体及び個人事業主(フリーランスを含む)で、県内に主たる事業所又は拠点を有し、文化芸術事業を行う団体
補助金上限額	100万円
補助率	100%
補助金総額	66,440千円(当初)
スケジュール	
令和2年 7月	● 事業説明会／個別相談会
8月	● 公募期間
9月	● アドバイザリーボード書類審査
10月	
11月	● 事業採択／交付決定／事業開始 ● 交付決定(追加分)
12月	● 概算払い(8割上限)
令和3年 1月	● 事業終了
2月	● 報告書提出／精算
3月	● 補助金交付

新型コロナウイルス感染症対策支援事業

担当専門員・嘱託員・プログラムマネジャーの紹介

[担当文化専門員]

棚原 健太 | たなはら・けんた

沖縄県出身。沖縄県立芸術大学音楽学部琉球芸能専攻卒業、同大学院修了。国立劇場おきなわ第四期組踊研修生修了。沖縄タイムス伝統芸能選考会[三線の部]グランプリ受賞。琉球古典野村流保存会教師。(公財)沖縄県文化振興会にて文化専門員として働く傍ら、琉球芸能の実演活動(歌三線)も行なっている。

[担当文化嘱託員・
プログラムマネジャー]

入嵩西 諭 | いりたけにし・さとし

石垣市生まれ。沖縄県立芸術大学大学院修了、国立劇場おきなわ第一期組踊研修生修了。沖縄県立芸術大学非常勤講師。琉球古典音楽安富祖流絃聲会師範。故郷・石垣島で中学時代に出会った笛の音色に魅了され、伝統芸能の世界へ。現在、国立劇場おきなわを中心に県内外で沖縄の古典芸能の舞台にて地謡・演奏活動を行なっている。

岡 憲志 | おか・けんじ

香川県出身。沖縄での劇場運営をきっかけに映画製作、舞台製作の企画、運営などの業務経験を経て2014年に独立。現在、フリーランスで多様な業種の企業と提携し、様々な事業の企画、マネジメントなどの業務に携わる。
OFFICE OKA 代表

平安山 美香 | へんざん・みか

那覇市生まれ。バレエ専門舞台監督。

吉川 牧子 | よしかわ・まきこ

沖縄市生まれ。J-WAVE、TOKYO-FM等、関東圏内で活躍するラジオDJが所属するプロダクションにてマネジャーを務めた後、帰沖。合同会社琉球ラボを起業し、HIP HOPラッパーのAwichのマネジメントを手がけた他、WEB制作を行なう。好きが講じてカフェのカレーメニューを開発中。

OKINAWA ARTS COUNCIL

新型コロナウイルス感染症対策支援事業 支援事業一覧

令和2年度沖縄文化芸術を支える環境形成推進事業
おきなわの文化芸術がふたたび歩み出すための緊急応援プログラム

採択事業数 | 総数=75件
区分①:47件
区分②:26件
区分③:2件

1 文化芸術活動の継続・強化に向けた運営上の課題解決を図る取り組み

令和二年度竹富島「種子取祭」における新型コロナウイルス感染拡大防止対策と記録作成事業 地縁団体法人 竹富公民館

コロナに負けるな!バレエフェスタ@宜野湾海浜公園屋外劇場 CompanyDreamArt

ドライブイン方式による新しい生活様式に対応した鑑賞及び表現活動の場の創出事業 株式会社シュガートレイン

制作発表活動を継続するためのオンライン上で吉濱 翔 の試行実験と発表事業

新型コロナウイルスの影響を受けない芸術活動の展開 バリガムラン&舞踊グループ マタハリ・トゥルビット

新しい生活様式における琉球王府の宮廷楽「路次楽・御座楽」保存への取り組み 首里王府阿波連路次楽御座楽保存会

感染予防対策を講じた琉球舞踊の創作活動(稽古および発表)方法についての検証と意見交換会 安座真本流大北満之会 山城亜矢乃琉舞研究所

うるま市の無形文化財『闘牛ウシオーラセー』の魅力をネット中継で全国に配信 ワイドープロジェクト

ニュースタンダード下の演劇公演の可能性の実証実験および検証事業 Theater TEN Company

新しい生活様式に即した伝統芸能琉球笛のお稽古オンライン配信事業 琉球笛研究会 中野夢

オンライン配信を活用した地域芸能祭の開催 沖縄県青年団協議会

クラシック音楽団体共用コンサートの過ごし方動画作成、及び公演受付業務マニュアル作成事業 クラシック音楽団体有志実行委員会
(一般社団法人 楽友協会おきなわ)

沖縄県高校生交流イベント「ガクアルFESTA」分散開催及びライブ配信による継続・強化実施 ガクアル FESTA 実行員会
(株式会社ガクアル)

沖縄音楽シーンをとめない・音楽発信事業 HumanStage
『How Toライブイベント=音楽っていいよね=』

県内外への認知度拡大に向けた発信事業 芦立さやか

ドローンを使用した遠隔操作撮影による密を避けた映画製作の実証実験 高山創一製作所 高山創一

染めの継承に向けたワークショッププログラムの開発 一般社団法人 ネイミュージアムオブアート

「闘牛戦士ワイドー」オンラインヒーローショーで伝統闘牛の魅力を世界の子供達に発信 ワイドー ai プロ株式会社

コロナ禍における演劇活動と公演の新しいアプローチ うるま市民芸術劇場附属うるま市ジュニアオーケストラ

オンラインピアノレッスン&分散型ピアノ発表会 プチピアノ館 幸喜小百合

子供達に心から楽しんでもらうダンスプロモーション動画撮影体験 TOMOPHOTO 宮里智美

遠隔(オンライン)による音楽レッスンに関する実証実験 中村亮

DJ LIVE 配信ストリーミング番組 rakuen graphics 松山陽樹

野外公演でのコロナ対策安全検証 映画上映会 フエルマータ・株式会社

子ども演劇ふるさとづくりリーダー養成講座継続事業 やいま浪漫の会

「大判プリント展」開催でのギャラリー継続とネット配信による強化事業 INTERFACE 東松泰子

withコロナに適応した演奏事業 上原結子

自主公演会(演舞会)事業及び、オンラインを活用した活動の周知拡大事業 宮古島創作芸能団んきゃーんじゅく

コロナ禍における沖縄版オペラ「琉球歌劇」上演のあり方と保存・継承を考えるための事業 琉球歌劇保存会

新しい生活様式をとりいれた映像の上映と音楽ライブの開催 中川陽介

新しい生活様式の中で行う『琉球芸能』アトリエ公演のための解説映像製作と試演会事業 合同会社琉球芸能大使館

新しい文化を続けて生み出そう!

Molavi, Rameen Thomas

Keep Making New Culture!

琉球古武道・空手リモート技術指導及び安心安全
研究セミナー事業 與儀会館 與儀清

アニメ・実写映像作品における音響制作行程のオ
ンライン化事業 Y's Sound 佐藤裕美

オンライン三線レッスンに関する実証実験及び実
演例の音源収録 浦谷仁美

宮古踊りの実証実験と普及・継承事業 宮古踊りの会 豊島久美子

コロナに負けない琉装文化継続プロジェクト 知念範紹琉装文化学院

新しい生活様式に即した新しい技芸継承の実践、
模索とコロナ禍における舞台活動に関する意見
交換会 平安名ありさ

第31回沖縄芸能協会新春公演～伝統と創造～ 沖縄芸能協会 勝連繁雄

安心して楽しめるレッスンを提供する為の、安全
な環境作り実証実験 知念あかね

リモート稽古の実証実験の実施 玉城流扇寿妙の会 比嘉美好

音楽ネットライヴ配信 新崎裕人

コロナ禍における演劇活動と公演の新しいアプ
ローチ 演劇集団石川ひまわりキッズシアター
山城康代

宮古島に組踊の文化を根付かせたい!～島出身芸
能実演家の活動機会創出事業～ 亀浜律子

「新しい生活様式」を取り入れた音楽イベント継続
に向けた実証実験に関する事業 井本和也

沖縄歴史探求ワークショップのオンライン化実
証実験 琉球歴史文化研究所クボウグランデ
賀數仁然

配信テストLIVE「音の祭り ソーシャルディスタン
スの距離を超える音楽の絆」～より魅力的なLIVE
配信の形を探る事業～ 上里基

2 文化芸術の享受者の拡大に資する魅力的な創造発信を行う取り組み

八重山におけるアーティスト及び技術者の活動 機会をクリエイトする配信事業の実証実験プログラム	やいまぬむじか実行委員会
オンラインでの三線文化情報発信事業	沖縄県三線製作事業協同組合
舞台芸術作品の映像化、WEB配信の為の講座実施と相談窓口の設置	一般社団法人 おきなわ芸術文化の箱
インターネットを利用した「stay connected～つながり続ける～」エンターテイメント配信	株式会社 TEAM SPOT JUMBLE
オンラインジャズレッスン及びセッション体験講座の実証実験	スタジオ林 林祐二
みんなで楽しもう！ピクニックコンサート	特定非営利活動法人 琉球交響楽団
嘉手納から世界へ！YouTubeチャンネルでの配信事業	知名勝
てだこのみみぐすいコンサート 音楽でおともだちに会いに行こう！ ～家族で楽しむコンサート～	浦添市てだこホール指定管理共同企業体ティダ・コミュニケーションズ & リレーションズ
ソーシャルメディアを活用した、地域の文化遺産・芸能、魅力発信事業	一般社団法人 創作芸団レキオス
公演に代わる動画配信のための劇場での撮影と配信	おから
やちむん金城一門のWebによる紹介・宣伝	宮古島壺屋焼金城陶芸 金城敏信
新型コロナウイルス感染症対策に講じた映画撮影における次回へ繋げるための予告編制作事業	岸本司
オンライン配信による無観客会場からの沖縄芝居を通じて、多様な人たちをつなげる実証実験事業	劇団群星
県内アーティストによるライブハウスからのライブ配信実証事業およびその効果を共有するための勉強会開催事業	安田陽プランディング研究所

コロナ渦中でも芸能で生きる!新しい表現の場を創るためのトライアル事業	和楽器の音楽会実行委員会
舞踊集団花やから公演オンライン配信実証実験	有限会社花やから
パフォーマンス動画配信に関する実証実験	ちゃんぷるーエンターテイナーたまんちゅ。
映像コンテンツのオンライン制作発表および新しい生活様式に対応した映画館上映並びにオンライン配信実証実験	友利翼
「新しい生活様式」を取り入れたトライアル公演と検証【(仮)NEO Ryukyu&那覇太鼓～コロナ退散祈願!特別配信公演～】	Neo Ryukyu 合同会社
八重山における映画文化継続のための映画上映会と日本最南端のミニシアター再建にむけての事業	ゆいシネマを守る会 宮良麻奈美
琉球芸能実演家向け ウェブ活用で環境改善と創造配信プロジェクト	ムーン企画 金城佳子
FEC旗揚げ27周年記念公演&ライブ配信事業	有限会社 FEC オフィス
ライブ配信での販路開拓事業	合同会社 JAIL HOUSE
配信ソフトや配信機材を使用したオンライン配信ライブやオンラインレッスン	禿 萌
安心して楽しんでもらうコロナ対策の中での音楽イベント継続と映像配信	ジ・アージ 玉城奈々
ガイアミュージック主催Demonstration Experiment Streaming LIVE～音楽家を支援する実演と配信ライブ～	ガイアミュージック 宮里春喜

3 文化芸術資源を活用して地域の諸課題の解決を促進する取り組み

ククルビジョン作の依存症予防動画上映を核とした啓発イベント	株式会社ククルビジョン
今に残す、現役沖縄芝居仲嶺真永による化粧法を残す	新川博敏

令和2年度沖縄文化芸術を支える環境形成推進事業

ぶんかとほじょきんそくだん会のご報告

沖縄文化芸術を支える環境形成推進事業では、県内の文化芸術に関する事業を行う方々を対象に、本補助事業のご相談の他、各種助成金や文化芸術に関する様々なご相談をお受けしています。

毎月20日に沖縄県文化振興会を会場に定期的に開催しています。また、宮古島市、石垣市他、県内市町村各地でも不定期で開催しています。

相談件数 | 397件（令和2年度）



文化薦め活動や地域活動に関するお悩み、広報や団体設立に関するお悩み、助成金申請に関する各種ご相談、自治体の文化事業等に関するご相談など洋蔵原文化振興会の専門スタッフが対応します。

【译文】 余秋雨的《文化苦旅》一书之“废都”一篇中说：“我常常觉得，我们民族的文化史比之世界任何民族的文化史，都要丰富、曲折、辉煌、灿烂。但同时，我们民族的文化史又比之世界任何民族的文化史，都要脆弱、浅薄、贫乏、丑陋。”

公司 / 沖縄県文化振興会
沖縄県芸術センター 小字第1802-1 沖縄県芸術センター本館102号室

(事前予約制) (1)氏名、(2) 所属、(3) 電話、(4)簡単な確認内容をお聞かせください。

第1章

内蒙自治区文化厅网站 0471-4673994 0471-4673995

[View all posts by **John Doe**](#) [View all posts in **Category**](#)

令和2年度沖縄文化芸術を支える環境形成推進事業 施策体系及び事業イメージ(資料)



油縵县文化苦街柜例

第7名

第7章 伝統的な文化の継承・発展

第9条

第3章 芸術等の振興

第12章

第10条 文化芸術団体への支援



公益財団法人 沖縄県文化振興会
事業一覧

公益財団法人 沖縄県文化振興会は、文化、芸術、学術の普及、情報の提供、調査研究、交流等を図り、沖縄県民の主体的、創造的な文化活動を支援するとともに、歴史資料として重要な公文書等の管理を総合的に行い、もって本県の文化、芸術、学術の振興に寄与することを目的としています。

公益財団法人 沖縄県文化振興会

住所 沖縄県那覇市字小禄 1831-1
沖縄産業支援センター 6階 605
TEL 098-987-0926
URL <https://www.okicul-pr.jp>



重要無形文化財保持者等公演



かりゆし芸能公演



「重要無形文化財保持者等公演」は、県民に重要無形文化財保持者等を中心とした格調高い伝統芸能公演の鑑賞機会を広く提供することを目的としている。前年度に県内市町村より会場の募集を行い、開催場所の選定を行っている。令和2年度は、11月23日(祝月)に多良間村で公演を実施した。



「かりゆし芸能公演」は、県民および観光客に伝統芸能の鑑賞機会を提供するほか、40歳以下の若手実演家の育成及び次世代を担う子どもたちが沖縄の伝統芸能に触れる機会を創出することを目的として、国立劇場おきなわ公演・移動かりゆし芸能公演(新設)・子ども×伝統芸能公演の三部門で公募及び選定を経て計28団体(採択団体)が選ばれ、県内各地で公演を実施した。



49回目を迎える「沖縄県芸術文化祭」は、県民の多様な芸術文化活動を奨励し、広く県民に芸術鑑賞の機会を提供することにより、県民文化の向上に寄与することを目的として、書道・写真・美術の3部門において県内在住者より広く作品を公募している。

写真部門については、移動展を行い、県民に広く鑑賞の機会を提供できるよう努めている。



本県における文学活動の推奨及び県民文化の振興を目的に、県民及び県外・海外の県系人から文学作品を広く公募している。

一般文芸部門6部門(小説、シナリオ・戯曲、随筆、詩、短歌、俳句)と、しまくどうくどうば文芸部門2部門(琉歌、しまくどうば演劇戯曲)の合計8部門で募集を行っている。

また、点字での募集も5部門(随筆、詩、短歌、俳句、琉歌)で行っている。



令和2年度文化活動支援助成事業



【公益財団法人 沖縄県文化振興会】

公益財団法人沖縄県文化振興会は、沖縄県の文化の振興を図るとともに多様な文化的創出を図るため、県内の文化団体が実施する文化活動に対して、予算の範囲内で助成します。
規模の大小は問いませんが、本県の文化振興に寄与する事業であることが要件となります。
なお、文化団体の年間の運営に助成するものではなく、一定の期間に行う特定の事業に対して助成します。

【2020年度 採択事業】

事業分野	ジャンル	事業名	事業者
芸術文化振興・芸術表現事業	美術	Rebirth Project(ビーカーリバースト)	人とつながるアートワークショップの 開発・実施・監修事業
	音楽	AGEHA	AKIKO HAGA(アキコ・ハガ) Gallerie Free Up Store Reserve 開催事業
芸術文化振興・芸術表現事業	その他	新羅寺竹村のオフィス	お城レーラブル道立公園
芸術文化振興事業	美術	中城ひ山アートナイト	中城ユニティオーナメント 制作公演実行委員会
	美術	安政熱舞祭井筒屋	東洋島における沖縄文化振興事業実行委員会



本県の文化の振興を図るとともに多様な文化の創出を図るため、県内の文化団体が実施する文化活動に対して上限50万円の助成を行う。

対象となる事業は、①自主企画・成果発表事業、②芸術文化派遣・招へい事業、③芸術文化普及事業の3部門。

審査の結果、美術2件、音楽2件、その他1件の計5件、2,150千円を助成した。

沖縄の特色ある文化・芸能等を観光資源として活用し、文化観光のメニューを確立することを目的とした「沖縄県文化観光戦略推進事業」は、沖縄のオリジナリティを活かした芸術性やエンターテイメント性の高い舞台公演のプロモーション等を行っている。

本公司の実施にあたり、新聞などのメディア、WEB・SNS配信、観光情報誌の掲載や関連業者への広報活動とあわせて、公演期間中の呼び込みを強化することで観光誘客を図っている。

※令和2年度は中止





沖縄県文化情報ポータルサイト

県内各市町村の文化事業、施設、助成事業及び県や市町村が主催、共催、後援している文化関連イベント情報等を収集・集約したWebサイト『沖縄県文化情報ポータルサイト「しまかる」』を管理・運営し、県民や観光客に向けて情報を発信している。

今年度は、県内の文化芸術・エンターテインメント関係者に向けた新型コロナの支援策情報の掲載も行った。

<https://www.shimacul.okinawa/>



指定管理者業務

沖縄県公文書館

住所 沖縄県南風原町字新川 148-3

TEL 098-888-3875

URL <https://www.archives.pref.okinawa.jp/>

沖縄県公文書館の指定管理者として、沖縄の歴史の証となる重要な公文書等を収集、保存し、これらの利用を図ることで、本県の学術及び文化の振興に寄与している。



沖縄アーツカウンシル

令和2年度沖縄文化芸術を支える環境形成推進事業

支援事業事例集

発行日 令和3年3月

発行者 沖縄県

編集 沖縄アーツカウンシル（公益財団法人沖縄県文化振興会）

執筆・校正協力 たまきまさみ（夕焼けアパート）

レイアウト協力 上里ジヤナサン誠（夕焼けアパート）

校正協力 岡部徳枝

TEL 098-987-0926

E-mail info-oac@okicul-pr.jp

URL <https://www.okicul-pr.jp>